

産業建設委員会調査視察

実施日：令和7年5月7日～9日

視察の目的

本市においては、由良川の治水対策のほか、近年の豪雨災害では、高潮の影響も含めて市街地の浸水が課題となっていることから、企業や市民の協力を得ながら治水対策を実施されている武雄市の取組を調査することとした。

また、水産業については、全国的な傾向と同様に、漁獲量の減少、漁業者の減少、消費量の減少、それらに伴う漁業経営の悪化などが課題となっており、新たなブランドの構築等に取り組まれている唐津市と、水産振興計画を策定して取り組まれている長崎市を調査することとした。

〔産業建設委員会の重点事項〕

- (1) 浸水対策の推進及び治水対策の促進に関する調査研究
- (2) 水産業の振興に関する調査研究
- (3) 創業・起業の支援に関する調査研究

視察先及び日程

舞鶴市議会のホームページに視察報告書を掲載していますので、ご覧ください。



日 程		視察先	調査事項
令和7年5月7日（水）	午後3時～4時30分	佐賀県武雄市	治水対策について
令和7年5月8日（木）	午前9時30分～11時	佐賀県唐津市	水産業の振興について
令和7年5月9日（金）	午前9時30分～11時	長崎県長崎市	水産業の振興について

産業建設委員会調査視察

実施日：令和7年5月7日～9日

【佐賀県武雄市】調査事項：治水対策について

《武雄市の取組の概要》

- ◇ 令和元年と令和3年の豪雨被害を踏まえて、「新・創造的復興プラン」を策定し、安心して住み続けられるよう取組を進めている。
- ◇ 「流域治水」の考え方で進めている中、市による対策としては、貯留広場整備の補助や遊水公園の整備など「貯める」ことが中心。
- ◇ 市民が自分のこととして治水を考えることが大事であり、市の広報誌にシリーズで「武雄の治水」を掲載するなど情報発信に努めている。

シリーズ
武雄の治水
～水と共に生きるまちへ～

vol.37

今回のテーマは
六角川流域水害対策計画と「ためプロ」

水災害に強いまちづくりの実現に向けて令和7年3月28日「六角川流域水害対策計画」を策定しました。今回は、その計画の内容及び取り組みについて紹介します。

●六角川流域水害対策計画の目標や事業期間は？
内水氾濫による大きな浸水被害があった令和3年8月豪雨を対象に、事業期間概ね20年で床上浸水被害の解消を図ることを目的とした計画です。

●浸水被害を防ぐ方法
① 六角川、武雄川の水位を下げる
→六角川洪水調整池、遊水地整備
② 支川に流れ込む水の量を抑える
→支川流域における遊水地・調整池整備及びため池・水田等の活用
③ 支川の排水能力を向上
→支川の堤防整備、河道拡幅など

対策実施の効果

項目	R3 8被災地点	現在(治水事業完了後)	浸水被害対策計画実施後
洪水氾濫防止	1,171	1,160	917
床上浸水	1,057	433	450
床上浸水率	619	115	0

※浸水戸数及び浸水面積は、シミュレーションにより算出した「都市浸水想定区域」に基づき算出したもの
◀計画の詳細はこちら

●武雄市「ためる」プロジェクト(通称:ためプロ)

市が独自に実施する治水対策として、市民が主体的に参加し、治水対策を進めるため、地権者・住民・事業者・行政が連携し、治水対策を進めています。

市の広報誌への連載

雨水貯留浸透施設整備奨励金

対象者

雨水貯留浸透施設を整備する土地・建物の所有者または使用者

対象地域

武雄市内全域（一部の区域を除く）

内容

① 雨水貯留広場 敷地内に雨水を一時的にためる広場
② 雨水浸透管 屋根などに降った雨を地下に浸透させるための管や樹
③ 雨水浸透溝 ③浸透溝 舗装面上に降った雨水を地中に浸透させる舗装
④ 透水性舗装

補助率と限度額

整備費用の2/3（1,000円未満は切り捨て）

施設区分	規模要件	限度額
①雨水貯留広場	貯留容量50㎡以上	100万円
②雨水浸透管	内径300mm以上	2万円/基
③雨水浸透溝	内径100mm以上	7,000円/㎡
④透水性舗装	表層厚（透水性舗装部分）30mm以上 路盤厚 100mm以上 砂層厚（フィルター層）50mm以上	500円/㎡

※②～④の浸透施設は、地すべりのおそれのある地域、急傾斜地で崩壊の危険がある地域など、雨水を地下へ浸透させることにより防災上の危険が生じるおそれのある地域は対象外になります。

《委員の所感》

- 学校グラウンドなどの公共施設を活用した雨水貯留については、ハードルがありつつも実施されている点などが参考になった。
- 市民による治水対策を支援する制度を設けるなど、行政と市民が一体となった取組も重要であると感じた。
- 民間企業の協力などで車両退避場所を確保して被害を軽減できた点は、予算も必要としない有効な取組であると思った。
- 豪雨時において、排水ポンプの運転を停止せざるを得ない状況も踏まえて、様々な被害の最小限化策を検討する必要性を感じた。

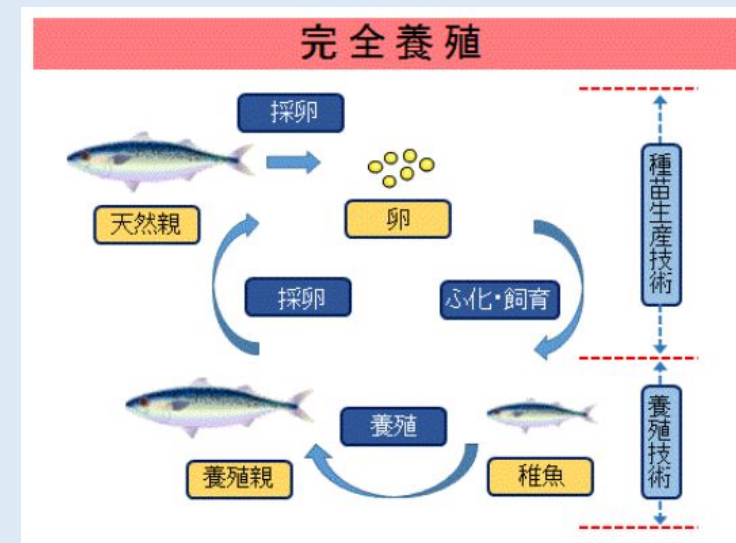
産業建設委員会調査視察

実施日：令和7年5月7日～9日

【佐賀県唐津市】調査事項：水産業の振興について

《唐津市の取組の概要》

- ◇ 新たな水産資源の創出などに向けて唐津市から九州大学に働きかけ、共同研究施設として「水産業活性化支援センター」を設置した。
- ◇ 天然マサバの弱みを解消し、脂の乗りが年中良く、寄生虫の心配もなく、漁況の影響がない完全養殖のマサバを開発することができた。
- ◇ 今後は、種苗の量産化、養殖生存率の向上、消費地域の拡大などにより、漁業の活性化や地域の活性化につなげていきたい。



新しい名物として定着させたい「唐津Qサバ」

《委員の所感》

- 舞鶴市には、京都大学の水産実験所もあることから、京都府などとも連携しながら、水産業の課題解決を模索できないかと思った。
- 大きな経費も伴うことから、容易に取り組めることではないが、水産業の将来の在り方を考える上で有意義な視察であった。
- 新たな水産物のブランド化を考える上で、養殖技術の確立が、品質や供給の面で非常に重要かつ有効であると感じた。
- 販路の拡大も重要であるが、舞鶴に来ていただいて食べていただく取組をさらに行うべきだと思った。

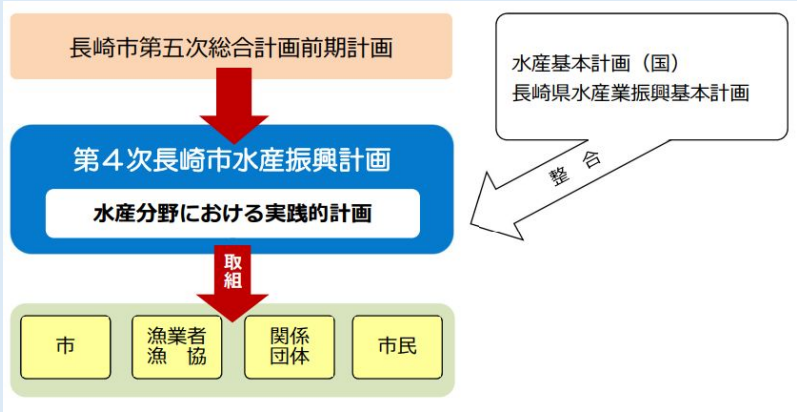
産業建設委員会調査視察

実施日：令和7年5月7日～9日

【長崎県長崎市】調査事項：水産業の振興について

《長崎市の取組の概要》

- ◇ 水産業を環境変化に強く活気のある持続可能な産業にすることを基本施策とする「水産業振興計画」を策定して取り組んでいる。
- ◇ 担い手確保に関する取組としては、受入地域の確保や体制整備、新規就業者・後継者に対する地域漁業への定着支援などを実施。
- ◇ 消費拡大に関する取組としては、「さしみシティ」をキャッチコピーに、飲食店、小売店などの民間事業者等と連携して推進。



水産振興計画の位置づけ



水産振興計画



グルメガイド

《委員の所感》

- 水産振興計画によって、現状を的確に把握し、目指す将来像に向けて計画的に進められている点が参考になった。
- まちなかに「さしみシティ」のポップや賛同店舗が多く見られるなど、行政と市民の思いが強く感じられた。
- 市内の子供たちに向けた学習機会の創出や、新規就業者への支援も行われており、人材育成支援が細やかな印象を受けた。
- 本市においても、漁業の教育・学習を早くから取り入れることにより、漁業への関心や魚食普及につながるのではないかと感じた。